



## 平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月1日

上場取引所 東

上場会社名 不二製油株式会社

コード番号 2607 URL <http://www.fujiioil.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 清水 洋史

問合せ先責任者 (役職名) IR・広報部長

(氏名) 隈部 博史

TEL 06-6459-0701

四半期報告書提出予定日 平成26年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	63,802	8.4	3,480	△1.2	3,540	△0.1	2,893	37.2
26年3月期第1四半期	58,831	5.1	3,521	18.8	3,542	22.7	2,109	12.2

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 2,371百万円 (△55.5%) 26年3月期第1四半期 5,331百万円 (41.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	33.66	—
26年3月期第1四半期	24.54	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	204,629	137,852	63.9	1,522.27
26年3月期	202,206	135,124	63.3	1,490.00

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 130,854百万円 26年3月期 128,080百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	13.00	—	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	133,300	12.4	6,000	△6.7	5,800	△9.0	3,800	△2.4	44.21
通期	282,700	11.7	15,000	△1.6	14,600	△1.3	9,000	10.2	104.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	87,569,383 株	26年3月期	87,569,383 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	1,609,430 株	26年3月期	1,609,330 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	85,960,034 株	26年3月期1Q	85,960,356 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に対する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想値とは異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税引き上げの経済への影響が懸念されましたが、企業収益や個人消費に改善がみられ、株価も堅調に推移して、景気回復基調は継続されました。一方、海外では、米国経済の回復が見られたものの、新興国経済の成長鈍化や特定地域における紛争など、依然として先行き不透明な情勢が続きました。

当社グループを取り巻く国内食品業界では、円安による原料価格上昇が継続し、引き続いて厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループは新中期経営計画「ルネサンス不二2016」を策定し、「グローバル経営の推進・加速」「技術経営の推進・加速」「サステナブル経営の推進・加速」を基本方針として、顧客ニーズに即した製品開発、高機能素材の供給、生産コストの削減に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高は638億2百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益は34億80百万円（前年同期比1.2%減）、経常利益は35億40百万円（前年同期比0.1%減）、四半期純利益は28億93百万円（前年同期比37.2%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

## (油脂部門)

国内では、パーム油・チョコレート用油脂の販売数量が増加しましたが、業務用斗缶を中心とした調合油の販売数量が減少しました。売上高は、ヤシ油・パーム油・チョコレート用油脂の販売価格上昇により、増収となりました。

海外では、米国・中国におけるチョコレート用油脂の販売数量が増加し、全体的な販売価格上昇と円安による円換算額の増加も寄与して、増収・増益となりました。

以上の結果、当部門の売上高は248億60百万円（前年同期比11.6%増）、セグメント利益（営業利益）は11億83百万円（前年同期比81.9%増）となりました。

## (製菓・製パン素材部門)

国内では、業務用チョコレートは、スイートチョコ・アイスコーティングチョコ・カラーチョコ・成型チョコの販売が増加して増収となりました。クリーム・マーガリンは増収、調製品は減収となりましたが、全体の売上高は増収となりました。採算面では、全般的に円安の影響を受けて原料価格が上昇し、減益となりました。

海外では、クリームは、東南アジアでの販売が好調に推移して増収となり、マーガリンも東南アジア・中国での販売が増加して、全体で増収・増益となりました。

以上の結果、当部門の売上高は291億78百万円（前年同期比8.4%増）、セグメント利益（営業利益）は20億77百万円（前年同期比14.1%減）となりました。

## (大豆たん白部門)

大豆たん白素材は、食肉・健康食品・水産市場の販売が減少しましたが、惣菜・加工食品及び中国での販売が増加して増収となりました。大豆たん白機能剤は輸出・調理用途が増加して増収となりました。大豆たん白食品は、小売市場向けが減少して減収となりました。豆乳は、新製品の販売が寄与して増収となりました。全体の売上高は、増収となりましたが、大豆たん白素材の原料高による採算悪化の影響により大きく減益となりました。

以上の結果、当部門の売上高は97億63百万円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益（営業利益）は2億20百万円（前年同期比51.3%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ24億23百万円増加し、2,046億29百万円となりました。

主な資産の変動は、現金及び預金の減少8億42百万円、受取手形及び売掛金の増加2億52百万円、たな卸資産の増加14億48百万円、有形固定資産の減少10億91百万円、投資有価証券の増加11億70百万円、退職給付に係る資産8億75百万円であります。

有利子負債（リース債務は除く）は、前連結会計年度末に比べ4億77百万円減少し、284億63百万円となりました。

主な純資産の変動は、利益剰余金の増加33億12百万円、その他有価証券評価差額金の増加5億32百万円、為替換算調整勘定の減少9億78百万円であります。

この結果、自己資本比率は63.9%、1株当たり純資産は1,522円27銭となりました。

### (連結キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ8億10百万円減少、前第1四半期連結累計期間末に比べ67億89百万円減少し、137億68百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で7億90百万円減少し、28億75百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益37億97百万円、減価償却費20億22百万円、仕入債務の増加額5億65百万円等による収入が、たな卸資産の増加額19億4百万円、売上債権の増加額6億9百万円、法人税等の支払額17億78百万円等の支出を上回ったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で8億円支出が増加し、19億40百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12億64百万円、関連会社株式取得による支出5億35百万円等があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期比で9百万円支出が減少し、15億34百万円の支出となりました。これは主に、短期借入金による資金調達額の純減少額1億50百万円、配当金の支払額11億17百万円による支出等があったことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月9日発表の第2四半期累計期間及び通期の業績予想は修正しておりません。今後の事業環境の変化を見極めた上で、見直しの必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更並びに割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る資産が718百万円増加、退職給付に係る負債が1,668百万円減少し、利益剰余金が1,536百万円増加しております。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	14,651	13,809
受取手形及び売掛金	48,349	48,601
商品及び製品	20,556	22,503
原材料及び貯蔵品	20,840	20,341
繰延税金資産	1,419	1,744
その他	3,744	4,065
貸倒引当金	△85	△70
流動資産合計	109,476	110,995
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,966	28,424
機械装置及び運搬具(純額)	28,221	27,208
土地	15,951	15,907
建設仮勘定	1,584	2,111
その他(純額)	1,205	1,187
有形固定資産合計	75,930	74,839
無形固定資産		
	1,119	1,106
投資その他の資産		
投資有価証券	12,763	13,933
退職給付に係る資産	-	875
繰延税金資産	135	173
その他	2,971	2,894
貸倒引当金	△192	△189
投資その他の資産合計	15,678	17,687
固定資産合計	92,729	93,633
資産合計	202,206	204,629

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,569	21,931
短期借入金	19,727	20,006
1年内償還予定の社債	20	20
未払法人税等	2,234	1,378
賞与引当金	1,894	2,778
役員賞与引当金	60	2
その他	6,188	6,557
流動負債合計	51,694	52,676
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	4,192	3,436
繰延税金負債	2,270	3,424
役員退職慰労引当金	28	29
退職給付に係る負債	3,280	1,625
その他	614	584
固定負債合計	15,387	14,100
負債合計	67,082	66,777
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,208	13,208
資本剰余金	18,324	18,324
利益剰余金	94,835	98,147
自己株式	△1,746	△1,746
株主資本合計	124,621	127,933
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,585	4,117
繰延ヘッジ損益	79	△69
為替換算調整勘定	379	△599
退職給付に係る調整累計額	△586	△528
その他の包括利益累計額合計	3,458	2,920
少数株主持分	7,044	6,997
純資産合計	135,124	137,852
負債純資産合計	202,206	204,629

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	58,831	63,802
売上原価	47,459	52,284
売上総利益	11,372	11,517
販売費及び一般管理費	7,851	8,036
営業利益	3,521	3,480
営業外収益		
受取配当金	98	108
為替差益	130	115
その他	107	153
営業外収益合計	337	376
営業外費用		
支払利息	118	85
持分法による投資損失	86	102
その他	110	128
営業外費用合計	315	317
経常利益	3,542	3,540
特別利益		
受取保険金	-	230
関係会社出資金売却益	-	37
特別利益合計	-	267
特別損失		
固定資産処分損	28	10
特別損失合計	28	10
税金等調整前四半期純利益	3,514	3,797
法人税、住民税及び事業税	1,496	976
法人税等調整額	△195	△231
法人税等合計	1,300	745
少数株主損益調整前四半期純利益	2,214	3,051
少数株主利益	104	157
四半期純利益	2,109	2,893

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,214	3,051
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	88	532
繰延ヘッジ損益	△290	△148
為替換算調整勘定	3,250	△1,096
退職給付に係る調整額	—	57
持分法適用会社に対する持分相当額	69	△24
その他の包括利益合計	3,117	△680
四半期包括利益	5,331	2,371
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,724	2,356
少数株主に係る四半期包括利益	607	14

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,514	3,797
減価償却費	2,158	2,022
退職給付引当金の増減額(△は減少)	25	-
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	-	△157
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	-	107
受取利息及び受取配当金	△117	△129
支払利息	118	85
関係会社出資金売却損益(△は益)	-	△37
売上債権の増減額(△は増加)	547	△609
たな卸資産の増減額(△は増加)	762	△1,904
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,454	565
その他	912	621
小計	6,468	4,362
利息及び配当金の受取額	118	129
利息の支払額	△88	△68
法人税等の支払額	△2,832	△1,778
保険金の受取額	-	230
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,665	2,875
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,178	△1,264
子会社株式の取得による支出	△4	-
関連会社株式取得による支出	-	△535
非連結子会社株式取得による支出	-	△57
連結の範囲の変更に伴う関係会社出資金の売却による支出	-	△42
その他	41	△39
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,140	△1,940
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△316	△150
長期借入金の返済による支出	△50	△36
配当金の支払額	△1,117	△1,117
その他	△58	△229
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,543	△1,534
現金及び現金同等物に係る換算差額	738	△211
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,719	△810
現金及び現金同等物の期首残高	18,837	14,578
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,557	13,768

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社及び当社グループ(以下 当社グループ)は油脂製品、製菓・製パン素材製品及び大豆たん白製品の製造販売を主として行っており、取り扱う製品群毎に国内外で事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品群を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「油脂」、「製菓・製パン素材」及び「大豆たん白」の3つを報告セグメントとしております。

「油脂」はヤシ油、パーム油及びパーム核油等を基礎原料とした精製油及びチョコレート用油脂等を製造販売しております。「製菓・製パン素材」はチョコレート、クリーム、ショートニング及び乳加工食品等を製造販売しております。「大豆たん白」は大豆たん白素材、大豆たん白食品及び豆乳等を製造販売しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	油脂	製菓・製 パン素材	大豆たん白	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,277	26,916	9,638	58,831	—	58,831
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,785	235	134	3,156	△3,156	—
計	25,063	27,152	9,773	61,988	△3,156	58,831
セグメント利益	650	2,418	452	3,521	—	3,521

(注) セグメント間取引消去によるものです。なお、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(参考資料)

所在地別セグメント

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	計	調整額	合計
売上高							
外部顧客への売上高	39,392	11,320	4,314	3,805	58,831	—	58,831
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9	7,663	191	4	7,869	△7,869	—
計	39,401	18,983	4,505	3,810	66,701	△7,869	58,831
セグメント利益又は損失(△)	2,856	683	18	△2	3,555	△34	3,521

(注) 1 国又は地域の区分の方法……………地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域…アジア：シンガポール、マレーシア、中国、フィリピン、インドネシア、タイ

米州：米国

欧州：ベルギー

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社及び当社グループ(以下当社グループ)は油脂製品、製菓・製パン素材製品及び大豆たん白製品の製造販売を主として行っており、取り扱う製品群毎に国内外で事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、製品群を基礎とした事業別のセグメントから構成されており、「油脂」、「製菓・製パン素材」及び「大豆たん白」の3つを報告セグメントとしております。

「油脂」はヤシ油、パーム油及びパーム核油等を基礎原料とした精製油及びチョコレート用油脂等を製造販売しております。「製菓・製パン素材」はチョコレート、クリーム、ショートニング及び乳加工食品等を製造販売しております。「大豆たん白」は大豆たん白素材、大豆たん白食品及び豆乳等を製造販売しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	合計
	油脂	製菓・製 パン素材	大豆たん白	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,860	29,178	9,763	63,802	—	63,802
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,407	82	149	3,638	△3,638	—
計	28,267	29,260	9,912	67,440	△3,638	63,802
セグメント利益	1,183	2,077	220	3,480	—	3,480

(注) セグメント間取引消去によるものです。なお、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(参考資料)

所在地別セグメント

(単位：百万円)

	日本	アジア	米州	欧州	計	調整額	合計
売上高							
外部顧客への売上高	41,420	12,866	4,837	4,677	63,802	—	63,802
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14	7,739	150	17	7,922	△7,922	—
計	41,434	20,606	4,988	4,694	71,724	△7,922	63,802
セグメント利益	2,128	709	138	445	3,422	58	3,480

(注) 1 国又は地域の区分の方法……………地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域…アジア：シンガポール、マレーシア、中国、フィリピン、  
インドネシア、タイ  
米州：米国  
欧州：ベルギー

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、当第1四半期連結会計期間より、新規事業創出と確実な事業化を図るため、組織改定を行っております。これに伴い、新規事業に係る費用について各報告セグメントへの配賦率を変更しております。

また、連結子会社であります不二製油(張家港)有限公司は、従来「油脂」に含めておりましたが、当社における「製菓・製パン素材」の量的な重要性が増したため、各報告セグメントの経営成績の実態をよりの確に把握することを目的に、当第1四半期連結会計期間より同社の業績を「油脂」及び「製菓・製パン素材」の報告セグメントに区分する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法及び変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

# 2015年3月期 第1四半期 決算補足資料

二つとない、をつくる。



1

## 目次

1. 連結 第1四半期業績
  - (1) セグメント情報の測定方法の変更
  - (2) 連結 損益概要
  - (3) 連結 油脂部門損益
  - (4) 連結 製菓・製パン素材部門損益
  - (5) 連結 大豆たん白部門損益
  - (6) 連結 地域別損益
  - (7) 連結 貸借対照表
  - (8) 連結 キャッシュ・フロー
  - (9) 連結 指標
2. 第2四半期業績予想及び通期業績予想
3. 単体 第1四半期業績

※1：本資料に記載されている金額は億円未満を四捨五入で表示しています。  
※2：本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2

## 1-（1）セグメント情報の測定方法の変更

### セグメント情報の測定方法の変更について

当社は当第1四半期会計期間より、新規事業創出と確実な事業化を図るため、組織改定を行っております。これに伴い、新規事業に係る費用について、各報告セグメントへの配賦率を変更しております。

また、連結子会社である不二製油（張家港）有限公司は、従来、油脂部門に含めておりましたが、同社における製菓・製パン素材製品の量的な重要性が増したため、各報告セグメントの経営成績の実態をよりの確に把握することを目的に、当第1四半期会計期間より、同社の業績を油脂部門および製菓・製パン素材部門の報告セグメントに区分する方法に変更しております。

なお、次ページ以降の前第1四半期累計期間のセグメント情報については、上記の方法に基づき作成したものを記載しております。

3

## 1-（2）連結 損益概要

（単位：億円）

		13年度 Q1	14年度 Q1	対前期	
				増減額	増減率
売上高	油脂	223	249	+26	+11.6%
	製菓・製パン素材	269	292	+23	+8.4%
	大豆たん白	96	98	+1	+1.3%
	合計	588	638	+50	+8.4%
営業利益	油脂	7	12	+5	+81.9%
	製菓・製パン素材	24	21	▲3	▲14.1%
	大豆たん白	5	2	▲2	▲51.3%
	合計	35	35	▲0	▲1.2%
	営業利益率	6.0%	5.5%	▲0.5p	—
経常利益		35	35	▲0	▲0.1%
四半期純利益		21	29	+8	+37.2%
四半期包括利益		53	24	▲30	▲55.5%

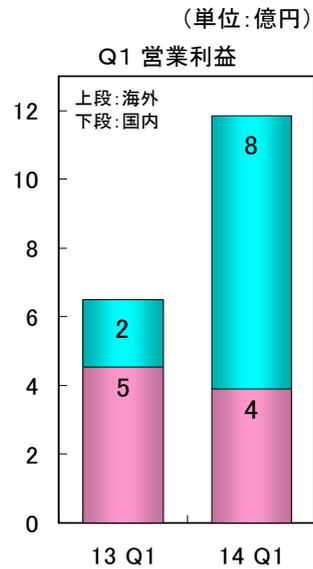
4

## 1-(3) 連結 油脂部門損益

	13年度 Q1	14年度 Q1	対前期	
			増減額	増減率
売上高	223	249	+26	+11.6%
営業利益	7	12	+5	+81.9%

### 【業績サマリー】

- 国内市場ではパーム油・チョコレート用油脂の販売数量の増加並びに、販売価格の上昇により増収。
- 海外市場では米国・中国におけるチョコレート用油脂の販売数量の増加並びに、販売価格の上昇と円安による円換算額の増加も寄与して、増収・増益。



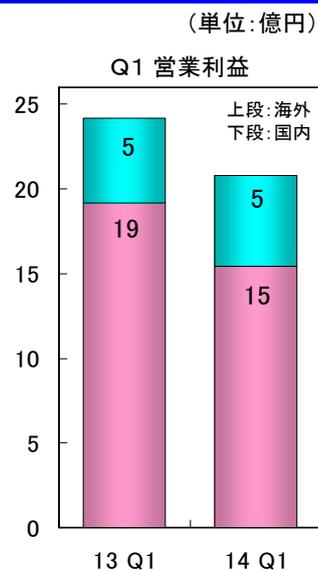
5

## 1-(4) 連結 製菓・製パン素材部門損益

	13年度 Q1	14年度 Q1	対前期	
			増減額	増減率
売上高	269	292	+23	+8.4%
営業利益	24	21	▲3	▲14.1%

### 【業績サマリー】

- 国内市場では業務用チョコレート、クリーム・マーガリンが増加し増収、採算面では円安の影響を受けて原料価格が上昇した結果、減益。
- 海外では東南アジアでのクリーム・マーガリン、中国でのマーガリンの販売が好調に推移し増収・増益。



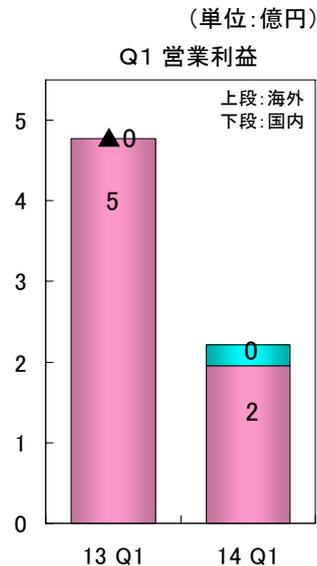
6

## 1-(5) 連結 大豆たん白部門損益

	13年度 Q1	14年度 Q1	対前期	
			増減額	増減率
売上高	96	98	+1	+1.3%
営業利益	5	2	▲2	▲51.3%

### 【業績サマリー】

- 大豆たん白素材は食肉・健康食品・水産市場が減少したが、惣菜・加工食品・中国市場が増加し、増収。
- 大豆たん機能剤は輸出・調理麺用途が増加し増収、豆乳は新製品が寄与し増収。
- 部門全体では増収となるも、大豆たん白素材の原料高による採算悪化により減益。



7

## 1-(6) 連結 地域別損益

(単位: 億円)

		13年度 Q1	14年度 Q1	対前期	
				増減額	増減率
売上高	日本	394	414	+20	+5.1%
	アジア	113	129	+15	+13.7%
	欧米	81	95	+14	+17.2%
	合計	588	638	+50	+8.4%
営業利益	日本	29	21	▲7	▲25.5%
	アジア	7	7	+0	+3.9%
	欧米	0	6	+6	+3475.9%
	消去	▲0	+1	+1	—
	合計	35	35	▲0	▲1.2%

- 日 本: 円安による原料価格上昇、大豆たん白素材の原料高等により減益。  
 アジア: チョコレート用油脂、クリーム・マーガリンの販売が増加し増収・増益。  
 欧 米: チョコレート用油脂の販売増加、販売価格上昇等により増収・増益。

8

## 1-(7) 連結 貸借対照表

(単位:億円)

	13年度末	14年度 Q1末	対前期末	
流動資産	1,095	1,110	+15	流動資産の主な増減要因 単体における在庫単価上昇による棚卸資産の増加等によるものであります。
固定資産	927	936	+9	固定資産の主な増減要因 有形固定資産の償却内投資、外貨換算差額の影響による減少等であります。 投資その他の資産の上場株式の含み益の増加、退職給付資産の増加等であります。
資産合計	2,022	2,046	+24	
有利子負債	289	285	▲5	有利子負債の主な増減要因 グループ会社における有利子負債の減少であります。
その他負債	381	383	+2	
負債合計	671	668	▲3	
純資産合計	1,351	1,379	+27	純資産の主な増減要因 利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金の増加、為替換算調整勘定の減少等であります。

9

## 1-(8) 連結 キャッシュ・フロー

(単位:億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	対前期
税引前四半期純利益	35	38	+3
減価償却費	22	20	▲1
他増減	▲20	▲29	▲9
営業キャッシュ・フロー	37	29	▲8
投資キャッシュ・フロー	▲11	▲19	▲8
フリー・キャッシュ・フロー	25	9	▲16
借入金等による調達・返済	▲4	▲2	+2
配当支払・自己株取得等	▲12	▲13	▲2
財務キャッシュ・フロー	▲15	▲15	+0
現金及び現金同等物増減(換算差額含む)	17	▲8	▲25
現金及び現金同等物残高	206	138	▲68

(注)・減価償却費には、有形固定資産及び無形固定資産等の償却費を含めています。

・現金及び現金同等物増減には、現金及び現金同等物に係る換算差額を含めています。

10

## 1-(9) 連結指標

(単位:億円)

	11通期	12Q1	12通期	13Q1	13通期	14Q1
設備投資額	62	16	65	15	61	15
減価償却費	84	19	81	20	83	19
有利子負債	377	384	370	377	289	285
純資産(少持除く)	1,036	1,059	1,154	1,190	1,281	1,309
1株当たり純資産	1,205円	1,232円	1,342円	1,384円	1,490円	1,522円
総資産	1,839	1,863	1,971	2,018	2,022	2,046
自己資本比率	56.4%	56.8%	58.5%	59.0%	63.3%	63.9%
D/Eレシオ	0.36	0.36	0.32	0.32	0.23	0.22
ROE	8.2%	7.2%	7.6%	7.2%	6.7%	8.9%
ROA	7.3%	6.4%	7.3%	7.1%	7.4%	7.0%

(注)・減価償却費は、有形固定資産の減価償却費を表示しています。  
 ・純資産は少数株主持分を除いた普通株式に係る純資産額を表示しています。  
 ・D/Eレシオ＝有利子負債÷純資産(少数株主持分除く)  
 ・ROE＝当期純利益÷純資産(Q1指標は、年換算しています。)  
 ・ROA＝経常利益÷総資産(Q1指標は、年換算しています。)

11

## 2 第2四半期業績予想及び通期業績予想

### 【連結業績予想】

(単位:億円)

	第2四半期累計			通 期		
	前 期	当 期	増 減	前 期	当 期	増 減
売上高	1,186	1,333	+147	2,530	2,827	+297
営業利益	64	60	▲4	152	150	▲2
経常利益	64	58	▲6	148	146	▲2
四半期(当期)純利益	39	38	▲1	82	90	+8

### 【単体業績予想】

(単位:億円)

	第2四半期累計			通 期		
	前 期	当 期	増 減	前 期	当 期	増 減
売上高	663	698	+35	1,413	1,503	+90
営業利益	49	35	▲14	105	89	▲16
経常利益	51	36	▲15	109	93	▲16
四半期(当期)純利益	33	24	▲9	64	59	▲5

(注) 2014年5月9日発表の第2四半期(累計)業績予想並びに、通期業績予想は変更しておりません。

12

### 3 単体 第1四半期業績

(単位:億円)

	13年度 Q1	14年度 Q1	対前年同期	
			増減額	増減率
売上高	327	344	+17	+5.3%
営業利益	28	19	▲8	▲30.2%
経常利益	30	20	▲9	▲31.5%
四半期純利益	20	18	▲2	▲8.8%

13